

## 総評

文部科学省消費者教育推進委員会委員長・東京家政学院大学教授  
上村 協子 氏

皆さんごきげんよう。本日は、時間に追われる中、消費者教育フェスタにご参加いただきありがとうございます。笑って楽しんでいただけましたでしょうか。ありがとうございます。消費者教育推進委員会、委員長の上村でございます。11名の委員を代表して、ご参加くださった皆様、ご登壇くださった皆様、そしてご協力くださった皆様に心からお礼を申し上げます。



2010年から始まった消費者教育推進委員

会は、今年、消費者教育の可能性を、もう一度生活の質ウェルビーイングとか生活の原点に立ち戻って捉え直そうとしております。萩原先生と、北欧に行った時に、日本は子ども若者が大事にされていない社会なんじゃないかという言葉いただきました。北欧を視察して言われたその言葉を今、もう一度問い直しをしてみたいと思い、子どもたちのウェルビーイング、生活の質という原点に立ち戻って、子どもたち、若者の社会参画を育む、その消費者の視点でつながる教育分野の連携協働の形。今日は、いろいろなアイデアをいただき、いろいろな可能性を感じていただいたかと思います。当事者意識を持って、対面でもオンラインでも身近な人のそれぞれの立場を理解し、立場や分野を超えた新しいつながり、つながり方を感じられたのではないかと思います。笑下村塾のたかまつなさんの信頼して権限移譲をしていこうよというメッセージが非常に大きかった気がします。それからパネルディスカッションの、豊福さん「あなたならどうする」あなたが主人公だからということ。高橋さんの先生がアンテナを高くして、子供が自分の価値観に照らして発言ができるような場を作っていこう。白上さんからは、本物の課題、先生が当事者性を持ってよりよい社会を作っていける、そういう本物の課題をかがげよう。浅川さんからは、社会の中への社会参画の方法は、ひとつではない、自分でその方法を探していこうという言葉いただきました。いろいろな言葉を今日は、先生方からいただきました。それから自分たちも生み出しました。非常に生み出すことが多かったと思います。ご参加をいただき、ありがとうございました。正解のない問い、自分の頭の中でどう整理をして、家庭や地域から若者が世界を変えていくような、そういう社会をつくっていけるかというのをこれからも私たちは、考えていきたいなと思います。最後の方で、スポーツなど、どういうところとでも連携していく、それぐらいの柔軟性もこれからは、必要なかもしれません。発想の転換、パラダイムシフトが起こりつつあると思います。社会は変えられると思う子供たちを育てたいです。それでは最後に本日、ご参加くださった皆様にご質問をします。あなたは消費者教育をきっかけに、社会は変えられると思う瞬間が本日あったのでしょうか。あった方は拍手をお願いします。

拍手

本日、フェスタをみなさんでつくりあげていくことができたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。